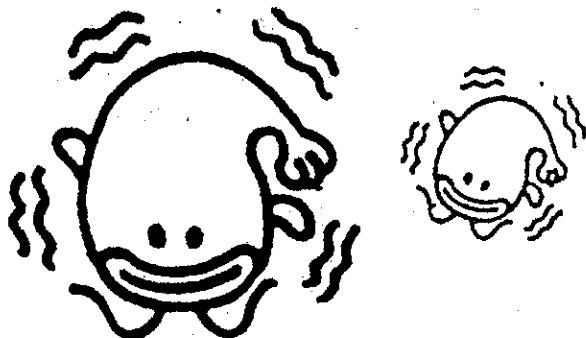


# 衣川台なまず通信

第11号



発行 衣川台自主防災部  
発行日 2007年11月1日

## 第2回防災訓練 有意義に終了

防災部事務局

本年度第2回目の防災訓練は、「暑からず寒からず」の訓練日和となった10月14日の日曜日、66世帯、105人が参加し、南公園を中心会場として執り行われました。

荒川防災部長の挨拶を皮きりに、参加者は3班に分れて、初期消火の訓練や水中ポンプの起動デモ、簡易担架の製作や怪我人搬送の訓練、骨折時や出血時の応急処置訓練等に取り組みました。さらに、家具の転倒や板ガラスの飛散に対する適切な防止方法を学んだり、非常食等のデモや試食にも参加しました。なお、防災部が現在保有している機材や簡易消火ポンプの実射デモも見学し、大いに見聞を広めました。

この間、8人もの北消防署員が終始熱心に指導され、終わりに講評をして頂きました。その中では、衣川台の防災意識が高いことや活動が充実していることを高く評価していること、地震後の初期対応においては地域の力に頼らざるを得ないこと、住民皆がこのような形で一緒に会話を交わすことが助け合いの原点であること等が強調されました。

最後に「災害活動員」リーダーの原田筆頭副部長が挨拶して、朝10時からお昼までの2時間の訓練は、スムーズに終了しました。今回の訓練は、各活動班が企画や運営担当の中心になって、対象範囲を幅広いものとし、かつ、日常生活でも大いに役立つ内容となりました。参加の皆様方は、訓練内容を有意義なものを受けとめられ、ご家庭での大地震への備えについても改めて誓われたのではないのでしょうか。

# 各班からのメッセージ

## 〈消火班〉

今回は、水消火器使用訓練、バケツリレー訓練の後、動力ポンプによる散水デモを、西羅古墳横の防火水槽を使って行いました。消防署員からは、次のような助言を頂きました。

(A) 消火器 ①消火に入る時は、大声で「火事だ!」と叫ぶ。②噴霧時間は15秒程度なので、火元の3mほど迄近づいてから消火を始める。③噴霧は炎ではなく火元を狙う。④粉体で視界が狭まるので、後ろ側の逃げ道を確保しておく。⑤天井に燃え移ったら、消火不可なので、家の外に避難する。⑥消火器は湿気の少ないところに置く。⑦消火器のラベル下部にある「能力単位」は「1」につき、「水バケツ3杯分」の消火能力を示す。

(B) バケツリレー ①水を汲んでリレーする側には、要員の7割、体力のある人を当てる。並び方は、「向かい合いジグザグ型」が高効率。②水量はバケツの半分くらい(4~5kg) ③散水は2~3人が交互に行う方が楽である。

## 〈救出班〉

衣川台の近くを通る堅田断層が動いたとき、衣川台は想像を絶する被害を受けると言われています。救出班はその時何が出来るのか、と考えた時、我々の保有能力では行動に限りがあります。そこで、被災時、皆様が怪我をしないように、次の対策をして頂きたいのです。

### ★ 家具の転倒防止 (特に寝室)

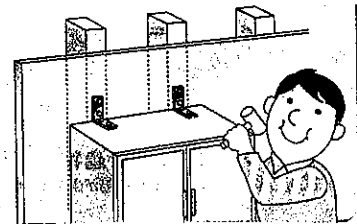
金具は、柱や壁の下地にしっかりと取り付けることが大切です。

家具の固定を希望される方は、防災部までご相談下さい。

### ★ ガラスの飛散防止

浴室は私たちが無防備な所です。ここから始めて下さい。

ガラスに貼る飛散防止フィルムがホームセンターにあります。皆さんの事前の備えで、救出活動ゼロが、私たちの願いです。



## 〈救護班〉

今回、救護班では、止血、骨折時の対処訓練と、救出班との連携による担架の搬送訓練を行いました。これらの訓練は、大津市北消防署の担当署員の説明と実技指導によるもので、大変わかりやすく、万一の災害・事故に備えた良い機会となったと思います。止血、骨折の対処では、段ボールやサランラップを用いた対処方法、担架による搬送訓練では、竹ざおと毛布による簡易担架の作り方と搬送の実技、というように現実の場面も考慮した内容になったと思います。『担架は、実際に持ってみると想像以上に重かった!!』『サランラップで応用できるんだ!!』というような参加者の声もありました。次回以降より、参加型の訓練を目指していきたいと思っております。

なお、救護班では、より充実した防災・救護体制の構築を目指し、救護班活動メンバー(救護班員および協力員)を募集してします。多くの皆さんからの応募を心からお待ちしています。気軽に本部員もしくは救護班メンバーに声をかけてください。

## <給食給水班>

「災害時におにぎりを握ったり、炊き出しのお手伝いをする」そんな軽い気持ちで集まった私たちですが、班会議を重ねる中で、チームワークもばっちりです。

今回は大鍋とカセットコンロを使用して簡易炊飯「お袋のわざ」の実演デモを行いました。お米を洗わず「魔法の袋」に一人分ずつ計量して熱湯の中で炊き、蒸らし、手順も心得たもの、参加者の皆さんに試食していただくと「おいしい、まあいけるやん」といわれて、ほっと胸をなでおろしました。またカンパンやキャンデーなど非常用のお菓子も幼児から年輩者までつまんでいただき喜んでもらいました。ご協力ありがとうございました。

「非常用持出品」の展示説明は山根班長の出番、ユーモラスに説得力のあるお話に皆さんうなずかれ早速注文?もあった程です。

最後に 飲料水や食料品は、自主防災部で備蓄しておりません。3日分の飲料水(1日1人3ℓ)や食料品は各家庭で備蓄しましょう。

## 10月1日から「緊急地震速報」が始まりました

### 「緊急地震速報とは」

気象庁が震度5以上の「ゆれ」の前に震度や震源を予測して情報を発表します。

### 「速報」を知る方法

NHKのテレビ・ラジオで聞くことができます。テレビでは独自のチャイムに続いて「緊急地震速報です。強い揺れに警戒してください」と2回流れます。速報から揺れるまでの時間は、震源地からの距離にもよりますが数秒から十数秒です。

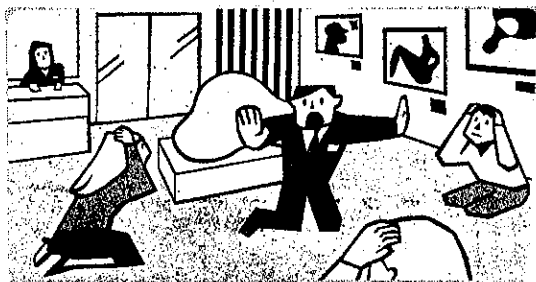
「速報」はスイッチが入っていないと聞くことはできません。スイッチが入っていても聞けるようにするには、専用の機器が必要です。(機器は¥70,000と高額ですが)

## 速報が流れたら

～気象庁が示す行動の指針～

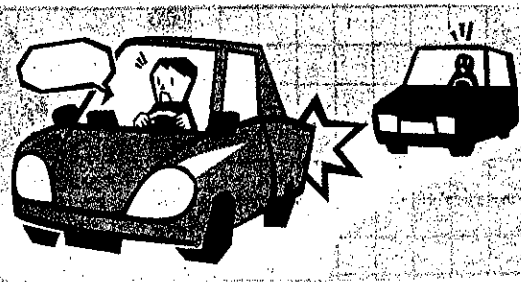
強い揺れが来るまでの時間は**ごくわずか!**まずその場でできる**安全確保**をして被害を軽減する

### ●人が大勢いる施設では



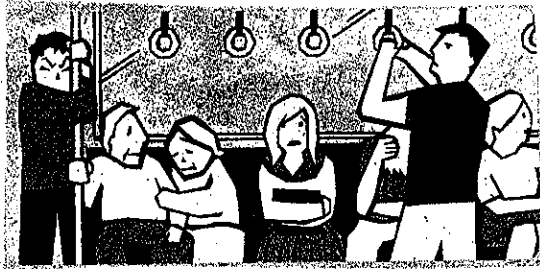
- ・係員の指示にしたがう
- ・落ち着いて行動する
- ・あわてて出口に走り出さない

### ●自動車運転中は



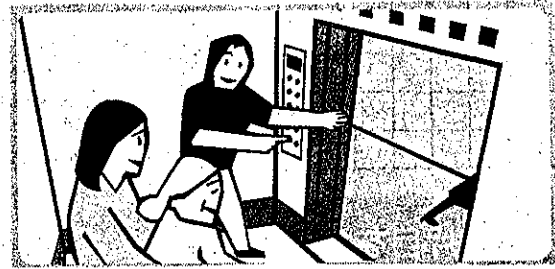
- ・あわててブレーキを踏まない
- ・ハザードランプを点滅して周りの車に知らせ  
揺れを感じたらゆっくりと停止する

●鉄道・バス乗車中は



・吊り輪、手すりにしっかり捕まる

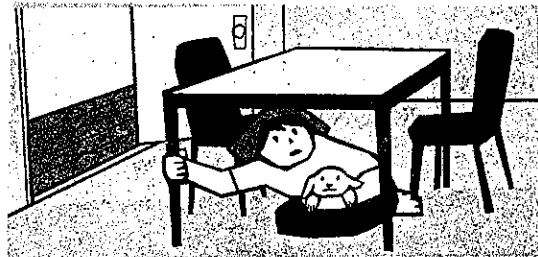
●エレベータでは



・全部ボタンを押し最初に止まった階で降り階段を利用する

●家庭では

- 頭を保護し丈夫な机の下などに隠れる
- あわてて外に飛び出さない
- 余裕があれば
  - ・火を使っていたら消す
  - ・戸を開けて避難路を確保する



読書の秋 地震の本いろいろ

地震についての本がたくさん出ています。

地震予知はまだまだ仮説が多いようですが、秋の夜長、手にとって見ませんか！

「地震のすべてのわかる本」 土井恵治監修 成美堂出版

地震、津波の起きるしくみと日本の危険地帯。

「最新日本の地震地図」 防災科学技術研究所 岡田義光

関東、近畿など地域別に、地震活動・活断層・被害・予測を地図に示す

「わかりやすい地震雲の本」 これであなとも大地震を予測できる 北国新聞社

カラー写真で見る地震雲のいろいろ

「地震と噴火の日本史」 伊藤和明 岩波新書

日本書紀にも地震の記録

「地震の前になぜ動物は騒ぐのか」 池谷元伺 NHKBOOKS

ネズミやカラスが騒ぎ、メダカは整列する。地震予知はできるのか？

「大地震で壊れる町、壊れない町」 宝島社